－　　－　　－

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸來　知子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	一生涯にわたり学び続けることの意味を考える。
授業の概要	キーワード：生涯学習社会の理解 　生涯学習という概念は、1960年代の中頃から新しい教育理念として出てきた。今日では、生涯学習社会を構築するために、学校教育にとどまらず、社会教育の役割も重要になっている。生涯学習論では、教育の原理、および生涯学習の意義を把握し、人間のライフサイクルと共に変化する学びの必要性を理解するし、また、社会教育施設や、教育に関する自治体行財政や法律についても学ぶ。
到達目標	生涯学習、および社会教育の意義を理解する。生涯学習の歴史的経緯を知る。人間の成長・発達の視点から教育の必要性を理解すると共に、有効な学習方法や学習のニーズを理解する。老人大学をはじめとする様々な社会教育施設を知る。
授業計画	第1回　オリエンテーション　生涯学習の歴史的側面・理念・目標 第2回　学校教育と生涯学習の関連性・生涯学習の現状 第3回　生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 第4回　日本と外国の生涯学習のあり方の相違 第5回　生涯楽手の内容・方法・形態について 第6回　成人期に学ぶことの意義と現状 第7回　老年期の学ぶことの意義と現状。教育老年学の紹介 第8回　生涯学習振興施策の立案と推進に関すること 第9回　生涯学習に関する社会教育行政について・一般行政との関連について 第10回　自治体の行財政制度と教育関連法規について 第11回　様々な社会教育の内容・方法・形態 第12回　社会教育施設及び生涯学習関連施設の紹介とその管理と運営 第13回　学習者への支援と評価の在り方・学習成果の活用について 第14回　社会教育指導者の育成とその役割について 第15回　まとめ・生涯を通して学ぶことの意義の確認
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前　前もって配布した資料等を読んでくること。 授業後　ノートを整理し授業内容を復讐すること。質問や疑問点があれば、次の授業で質問してください。 それ以外の時は、E-mailで質問、連絡などをして下さい。（tomoko-herai at nifty.com) *atは@に置き換える。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験の点数に小レポートや授業に取り組む姿勢などを2割を目安に加算します。
教科書	特に指定しない。
参考書	『生涯学習と自己実現』、堀薫夫、三輪健二著、放送大学教材 『生涯学習論－現代社会と生涯学習』、岩永雅也著、放送大学大学院教材

－　　－　　－

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館概論						
担当教員	三好　唯義						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。
授業の概要	博物館に関する基礎的な知識を学ぶ。それは博物館の定義、種類、機能、歴史などであり、今後の博物館学ならびに実習を進める上での基礎的知識である。さらに講義では、基礎的な知識を学ぶだけでなく、わが国の博物館の置かれた現状を把握することにも努め、これからの博物館のあり方を考える知識と能力を養う。
到達目標	博物館とは何をする、そして何をすべき機関であるかを知ることができる。またそこに属する学芸員はどのような仕事をしているのか、その資質として何が必要かを知ることができる。また現在の博物館と学芸員を取り巻く問題点も把握できる。
授業計画	（１回）博物館学の目的、方法（博物館論理学と技術学）、構成要素、周辺科学 （２回）欧米と日本における博物館学史 （３回）博物館の語源・定義（ICOM・ユネスコ・博物館法の規定）、他機関との相違 （４回）博物館の種別分類、設置者別分類、法的区分 （５回）博物館の目的とは （６回）博物館の機能について （７回）博物館の社会的機能（地域社会型、観光型、研究型） （８回）欧米における博物館発達史 （９回）日本における博物館発達史１（昭和２０年まで） （10回）日本における博物館発達史２（昭和２０年以降） （11回）博物館の現状と課題（種別、地域分布、入館者数など） （12回）博物館の未来像、博物館と他者との「連携と対話」 （13回）拡大する文化財概念と世界文化遺産 （14回）学芸員の役割（定義、役割、実態、諸外国との相違） （15回）博物館関連法令について
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館の見学はもちろん、新聞や雑誌、インターネットなどで、できるだけ博物館に関する情報に触れておくこと。 講義で学んだことを、現実の博物館にてらしつつ、自分にとって博物館とはという問題を考え続けること。
授業方法	講義形式にておこなう。
評価基準と評価方法	平常評価（出席、態度、発表、課題レポート提出等）70%と、期末テストもしくはレポート30%にて、総合的に評価する。
教科書	プリントを配布。
参考書	授業中に紹介します。 新編　博物館学 倉田公裕・矢島國雄著(東京堂出版) 博物館学ハンドブック 高橋隆博他編著(関西大学出版会)

－　　－　　－

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館教育論						
担当教員	三好　唯義						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	博物館における教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識となる方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。
授業の概要	博物館は社会教育の場、生涯学習の場である。この認識と対応は、現在の博物館にとって重要な課題である。博物館は学びの場としてどうあるべきか、そして利用者に対してどのように教育的活動を提供し、実践してゆけるかを考察する。博物館そしてそこで働く学芸員によって実践されている事例を学び、さらに将来に向けてどのように展開してゆくべきかを考えたい。
到達目標	博物館が実践している教育的な活動を、具体的に知ることができる。 博物館教育の理論と具体例を学ぶことによって、新たな活動例を企画・立案することができる。
授業計画	（１回）学びの意義 （２回）コミュニケーションとしての博物館教育（博物館教育の双方向性） （３回）博物館教育の意義 （４回）生涯学習と博物館 （５回）博物館教育の方針と評価、評価の基準 （６回）博物館の利用実態（多様な利用者とニーズ）と利用者の博物館体験 （７回）博物館における学びの特性（モノを通しての学び） （８回）博物館教育活動の手法（講座、講演会、体験学習、ギャラリートークなど） （９回）博物館教育活動の手法（体験学習と博物館資料） （10回）博物館教育活動の手法（子ども向け講座、ワークシートなど） （11回）博物館教育活動の手法（生涯学習としてのボランティア） （12回）博物館教育活動の手法（情報提供、資料の特別利用など） （13回）博物館教育活動の手法（出版事業、ホームページなど） （14回）博物館教育活動の企画と実施 （15回）学校教育との連携
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館施設の見学はもちろん、新聞や雑誌、インターネットなどで、博物館が実践している諸活動に関する情報に触れておくこと。そして、自らも参加・体験することが望ましい。 講義で学んだこと、現実の博物館で実践されている教育活動を知り、博物館教育とはどうあるべきかという問題を考えること。
授業方法	講義形式にておこなう。
評価基準と評価方法	平常評価（出席、態度、発表、課題レポート提出等）70%と、期末テストまたはレポート30%にて、総合的に評価する。
教科書	プリントを配布。
参考書	授業中に紹介します。

－　－　－

科目区分	博物館学芸員課程科目							
科目名	博物館経営論							
担当教員	問屋　真一							
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0	

授業のテーマ	博物館の望ましい管理・運営のあり方について、博物館の行財政制度の諸問題、市民・地域社会等との連携の現状と課題に即して考える
授業の概要	博物館経営（ミュージアムマネージメント）について、博物館を取り巻く近年の状況をふまえ、その意義と経営基盤・経営システム（国立・公立・私立）の現状と課題について概観する。また今日的課題である使命や評価、市民サービスのあり方などを取り上げ、博物館が課題解決のためにさまざまな連携活動等を取り組み、社会環境の変化に対応していることに言及する。
到達目標	博物館経営に関する諸問題の基本的事項を理解し、市民にとってどのような博物館が望ましいのか、考察することができるようになる。
授業計画	第1回　博物館経営とは　…経営的視点の必要性、博物館を取り巻く環境 第2回　組織と学芸員①　…学芸員制度と問題点、望まれる学芸員像と現状 第3回　組織と学芸員②　…分業と配置、館長以下の職務と育成 第4回　施設と設備①　…立地条件と建築、施設の配置と設備 第5回　施設と設備②　…文化財公開施設としての博物館 第6回　行財政　制度と財政　…法体系と施策、基準の見直し、財政状況 第7回　行財政　国立　…独立行政法人の意義と問題点 第8回　行財政　公立①　…公立館の財政状況と指定管理者制度の意義 第9回　行財政　公立②、私立　…指定管理者制度の問題点と課題、公益法人制度 第10回　使命と評価　…使命、自己点検評価と外部評価の意義と取り組み 第11回　倫理と危機管理　…行動規範の確認とさまざまな危機管理の現状 第12回　利用者サービス　…広報と広聴、アンケートとそれを活かした活動 第13回　市民参画と連携　…ボランティア活動等を通じての市民との連携 第14回　他館、他機関との連携　…社会的使命実現の取り組みの現状と課題 第15回　地域社会との連携　…取り組みの現状と課題、情報提供と協議会
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から多くの博物館、展覧会を見学することが望ましい。 また授業で得た知識や問題意識をいかして博物館、展覧会を見学し、新たな疑問や課題を持つことが重要です。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験またはレポートに加え、出席状況、提出物や授業態度、意欲などの平常点を重視する。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。

－　－　－

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館資料保存論						
担当教員	田中　由理						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	文化財を後世に伝えていくための保存論
授業の概要	博物館における資料保存の意義について考えた上で、資料の保全について、資料の状態調査、修復、梱包・輸送にかかわる基礎知識を学びます。続いて、博物館資料の保存環境について、保存の諸条件とその影響、生物被害とIPMによる対策、災害対策、収蔵・展示における保存問題を考えます。さらに、地域資源の保存と活用、文化的景観保存、自然環境の保護の観点から、環境保護と博物館の役割について理解を深めます。
到達目標	博物館における資料保存、及びその保存・展示環境、及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養います。
授業計画	第1回　博物館における資料保存の意義 第2回　資料の保全における諸問題 第3回　資料の状態調査・現状把握 第4回　資料の修復・修理 第5回　資料の梱包と輸送 第6回　博物館資料の保存環境－現状と課題－ 第7回　資料保存の諸条件とその影響 第8回　生物被害とIPM（総合的有害生物管理） 第9回　災害の防止と対策、文化財レスキュー活動の在り方 第10回　伝統的保存方法 第11回　収蔵、展示等の保存環境 第12回　環境保護と博物館の役割－事例研究－ 第13回　地域資源の保存と活用－エコミュージアムの試み－ 第14回　文化財の保存と活用 第15回　自然環境の保護－生物多様性と種の保存－
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館資料保存論は、博物館の学芸員をはじめとして、実際に資料を扱う立場になったときに、どのような心構えで文化財や資料と向き合うかを学ぶ授業になります。そこで博物館や美術館に実際に足を運んで資料を身近に感じたり、資料の保存についてのニュースやテレビ番組などにも関心を持っていただいたりなど、普段からアンテナを立てていただくことが一番の準備学習になるかと思います。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点や授業中の課題20%、レポート80%
教科書	
参考書	

－　－　－

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館資料論						
担当教員	問屋　真一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	博物館資料の種類と特徴、および館活動の最も基礎的で重要な資料収集、整理保管、調査研究等について
授業の概要	博物館資料の収集、整理保管、活用について、主として人文系博物館の資料に即して理論と方法を概観し、自然科学系博物館の資料に関しては人文系との異なる特徴について理解を促す。資料の活用、公開、調査研究活動が市民と博物館との連携を支えるものであることを理解し、博物館資料に関する基礎的な能力を養う。
到達目標	博物館資料の種類と特徴について理解し、資料の収集・整理保管・調査研究等について理論と方法に関する基礎的な知識を習得する。また調査研究活動とその公開の意義について考察できるようになる。
授業計画	前期　博物館資料論 第1回　博物館資料の意義と資料化　…モノとコト、一次資料と二次資料 第2回　人文系資料の種類①　…美術資料の種類と特徴 第3回　人文系資料の種類②　…歴史・考古資料の種類と特徴 第4回　人文系資料の種類③　…民俗資料、その他の資料の種類と特徴 第5回　収集の理念と方法①　…収集方針とコレクション、各館の方針と特徴 第6回　収集の理念と方法②　…収集（寄贈・寄託・購入等）の実際 第7回　自然史・動植物園系資料の収集　…種類、収集の特徴、自然保護・環境教育 第8回　理工系資料の収集　…種類、収集と価値観の特徴と課題 第9回　資料の分類・整理①　…受入、登録の方法と実際 第10回　資料の分類・整理②　…分類と目録の特徴 第11回　資料の公開①　…公開の理念と方法、特別利用 第12回　資料の公開②　…データベース公開の取り組みと課題 第13回　調査研究の意義と内容①　…収集・保管・活用と研究、博物館分析 第14回　調査研究の意義と内容②　…個人研究と共同研究、資料研究と地域研究 第15回　成果の公開と方法　…研究報告と展示活動、地域社会への還元
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から多くの博物館、展覧会を見学することが望ましい。 また授業で得た知識や問題意識をいかして博物館、展覧会を見学し、新たな疑問や課題を持つことが重要です。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験またはレポートに加え、出席状況、提出物や授業態度、意欲などの平常点を重視する。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書	講義中に適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館情報・メディア論						
担当教員	塚原　晃						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	博物館・美術館におけるICT（情報コミュニケーション）技術の応用
授業の概要	博物館が収集した１次・２次資料に関する情報は、博物館活動を展開する上で基幹となる情報である。近年、マルチメディアの発達は目覚ましいが、それに伴い博物館情報のデジタル化も急速に進められている。このデジタル化は博物館情報に新たな価値を付与するとともに、博物館活動に大きな変化をもたらしている。その結果、情報の管理や活用上の新たな課題も生じており、学芸員にはそれに対処する知識・能力が求められている。そこで、この科目では博物館が持つ情報の意義と、近年の各メディアを用いた博物館活動の展開について、具体的事例をもとに学び、新たな課題についても理解を深める。
到達目標	博物館における情報の意義と活用方法、および情報発信の課題等について理解し、博物館の情報提供と活用法等に関する基礎的能力を養う。
授業計画	第１回 講義　博物館における情報・メディアの意義と種類 第２回 講義　メディアの理論・歴史と情報の意義Ⅰ（インターネット以前のメディアと情報） 第３回 講義　メディアの理論・歴史と情報の意義Ⅱ（インターネット以後のメディアと情報） 第４回 講義　メディアとしての博物館（メディアの発展と博物館・情報） 第５回 講義　博物館活動の情報化（調査研究・教育普及から広報・広聴活動まで） 第６回 講義　情報管理と情報公開 （学校・図書館・研究機関の情報化との相違と関連、 博物館での情報管理システム構築および情報公開の実際） 第７回 講義　情報機器の活用（情報機器に関する知識・経験とコンテンツ制作について） 第８回 講義　コレクションドキュメンテーションとデータベース化 第９回 講義　デジタルアーカイブの現状と課題（画像データベース構築事例を中心に） 第10回 講義　ICT社会の中の博物館Ⅰ（博物館でのインターネットの活用、特に情報資源の双方向活用と役割） 第11回 講義　ICT社会の中の博物館Ⅱ（情報教育とメディアリテラシー、博物館メディアの役割と学習活用） 第12回 講義　情報倫理・映像倫理（情報・コンテンツの公開で博物館に求められる倫理観） 第13回 講義　博物館と知的財産Ⅰ（個人情報・知的財産権のあらまし） 第14回 講義　博物館と知的財産Ⅱ（権利処理の方法） 第15回 講義　博物館の情報化と新たな価値の創造（課題レポートの発表）
授業外における学習（準備学習の内容）	この授業では、博物館・美術館のインターネットによる情報発信・共有について話題になることが多いので、授業中に指定したWEBサイトを予習復習として閲覧することを求める場合がある。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	課題レポート40%、平常点60%（詳細は初回講義で説明）
教科書	なし。
参考書	『知のデジタルアーカイブ ―社会の知識インフラの拡充に向けて―』（総務省、2012年3月、http://www.soumu.go.jp/main_content/000167508.pdf）

－　　－　　－

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館実習						
担当教員	宗像　衣子・山本　和人						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	3.0

授業のテーマ	博物館学芸員課程の４年間の総まとめ
授業の概要	本科目は、夏期の館園実習を中心にして、その事前指導と事後指導（講義・演習含む）、実務実習及び見学実習（日曜日）で構成される。 夏期館園実習は各学生の能力に応じてできるだけ専門領域関心分野に関わる実習館を用意する。 事前に十分に各館について全員で学び、調査発表等によって互いに知見を共有し、各々一定の実践的能力を備える。 シラバスは館園実習（夏期５～６日の終日）を除く。 （Ａ：担当 宗像先生、Ｂ：担当 山本先生） （この科目以外に、任意設定科目：比較文化ＩＡＢ、考古学で関連学外研修・実習の可能性あり。）
到達目標	博物館学芸員課程の４年間の学修の総まとめの意味をもつ科目であり、３年次までに博物館課程の、実習を除く必修科目、必要な選択必修科目をすべて修得し、かつ一定の学修基準等を満たした学生のみに履修が認められる。 多様な館種の実状、そこでの学芸員の仕事を把握し、実践的能力を養うことで、学科の学びに理論的並びに具体的に関連付けられた課程としての集大成を目標とする。（少人数クラスで充実した個別指導）
授業計画	不定期の授業時間になるが、まだ未定部分が多いので、学科からの連絡で登録を許可されたものは、 ４月の第一回目の授業に出席して、授業日程と具体的内容その他詳細や注意事項についての説明を受けること。
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	講義と実習
評価基準と評価方法	平常点７５％、レポート等２５％
教科書	なし
参考書	なし

－　－　－

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館展示論						
担当教員	田中　由理						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	コミュニケーションとしての展示論
授業の概要	博物館における展示について、コミュニケーションとしての展示、研究成果の提示等からその意義について考え、展示論の歴史やその政治性と社会性について見識を深めます。また、博物館展示の実際として、展示形態に関する理論、及び展示の製作方法から評価・改善までの諸事例について理解します。さらに、展示の解説活動として、解説文やパネル、人、機器を用いた解説法、展示図録等の製作について学びます。
到達目標	展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論、及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養います。
授業計画	第1回　博物館展示の意義 第2回　コミュニケーションとしての展示 第3回　調査研究の成果の提示 第4回　展示と展示論の歴史 第5回　展示の政治性と社会性 第6回　博物館展示の事例研究 第7回　展示の諸形態 第8回　展示の製作－企画から施工まで－ 第9回　関係者との協力 第10回　展示の評価と改善・更新 第11回　展示の解説活動の諸事例 第12回　解説文・解説パネル 第13回　人による解説－学芸員、ボランティア解説員－ 第14回　機器による解説－ビデオトーク、模型展示－ 第15回　展示解説書－展示図録の作成－
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館展示論では、学芸員がどのような意図をもって、どのような方法で、一般の人々に対して資料を提示し、コミュニケーションを図っていくべきなのかを学びます。そのため、実際に博物館や美術館に足を運んで、そこでの展示の工夫や、来館している人々の様子や反応などを感じていただくことも重要だと思います。またもし自分が展示をすることになったら、どのようなものにしたいかなども、授業の中で実践的に考えてみたいと思っています。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点や授業の課題20%、レポート80%
教科書	
参考書	